



GignoSystem
Japan



Information
Provider



Solution

株主通信

第12期中間事業の報告書

2007年4月1日～2007年9月30日



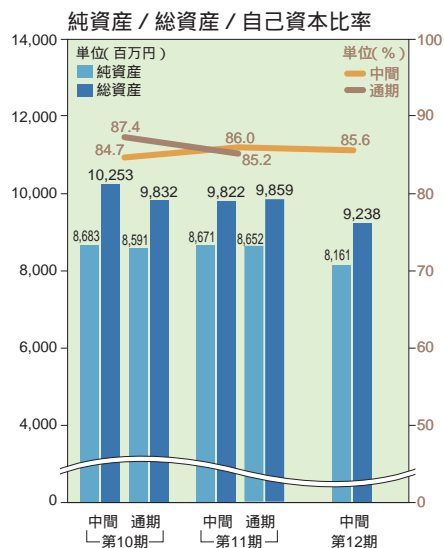
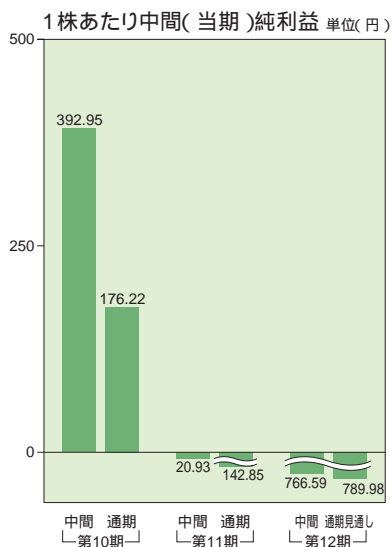
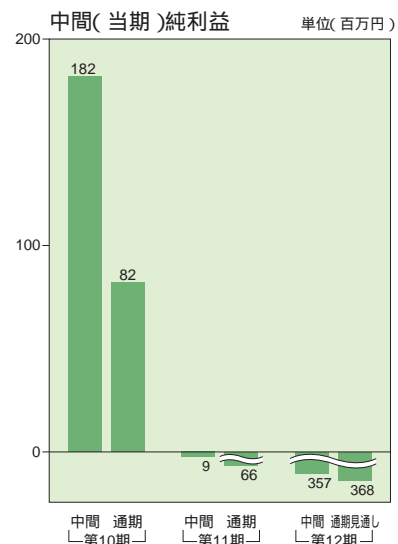
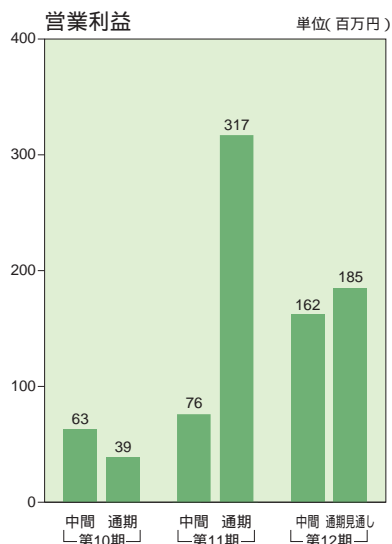
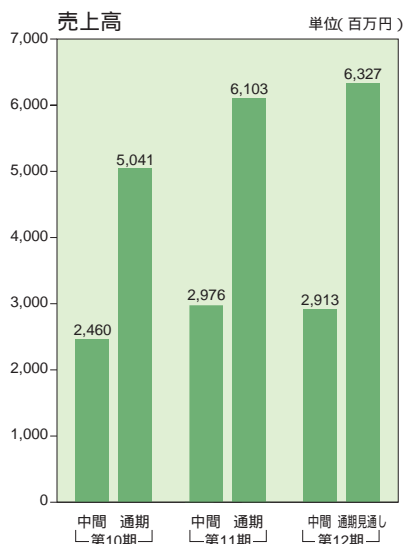
Video
&
Music

ジグノシステムジャパン株式会社

【証券コード：4300】



連結財務ハイライト



2005年5月20日付(第10期)で、普通株式1株につき5株の株式分割を行っております。



株主の皆様へ



代表取締役会長兼社長 池田 実

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別なるご支援を賜り、心から御礼申し上げます。当中間期におきましては、前決算期に引き続き特別損失の発生と業績見通しを大幅に修正することになり、株主の皆様にご大変ご心配をおかけしておりますことを深くお詫び申し上げます。業績に関する経営責任を明確にするため、10月31日開催の取締役会にて、代表取締役社長の飯田桂子は辞任し、私が社長を兼任して、経営体制を刷新することといたしました。

私は、2007年4月に顧問としてジグノシステムジャパンに入社し、6月27日開催の第11回定時株主総会において代表取締役会長に選任され就任いたしました。以来、モバイルコンテンツビジネスで成長してきた当社を、放送と通信の融合に向けてインターネット総合プロデュー

ス企業へと脱皮させるべく取り組んでまいりました。具体的には、10月より(株)エフエム東京、西日本電信電話(株)、東日本電信電話(株)、(株)ジャパンエフエムネットワークを株主とするティーエフエム・インタラクティブ(株)との戦略的業務提携に踏み切り、営業活動において全面的連携体制を取り、今後、コンテンツ制作、システム開発・運営においても連携を強化してまいります。

一方で、当社の子会社、関係会社を含めた経営管理について、全面的見直しと改革を進めております。これらの改革は役員従業員全員の理解の下、着実に進んでおります。

今後、インターネット総合プロデューズ企業として力強い成長発展を実現すべく、業績回復に全力を挙げてまいりますので、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



社長メッセージ

第12期上半期の業績につきまして、ご報告させていただきます。

営業利益は倍増の一方で、純損失を計上

当社は、モバイル(インフォメーションプロバイダー(IP)事業)、ソリューション、映像・音楽制作を中心に事業を展開しております。

IP事業につきましては、無料サービスが台頭してきている中、有料サービスを基本的なビジネスモデルとする当社は、お金を払う価値のあるコンテンツの制作と権利の獲得に力を入れてまいりました。当中間期はこうした努力が実を結び、ここ数年続いていたユーザーの減少が下げ止まり、増加に転じました。特に電子書籍、着せ替えツールなどのリッチコンテンツが順調でした。

ソリューション事業は、従来からの携帯サイトの開発・運営受託、携帯サイト向けシステムソリューションが堅調に推移し、売上、利益ともに順調な伸びを示しました。

映像・音楽制作事業におきましては、(株)オニオンが好調に推移した一方、(株)サーティース、(株)ネクサスフィルムスにおける売上未達等により計画を大きく下回りました。

以上の結果、当中間期の連結売上高は前年同期比2.1%減の29億13百万円となった一方、連結営業利益は同111.7%増の1億62百万円と順調な回復を見せました。しかし、前決算期に引き続き特別損失の発生により、連結中間純損失として3億57百万円を計上する結果となりました。また、これに伴い2008年3月期通期の連結業績予想も下方修正し、3億68百万円の連結当期純損失を見込んでおります。

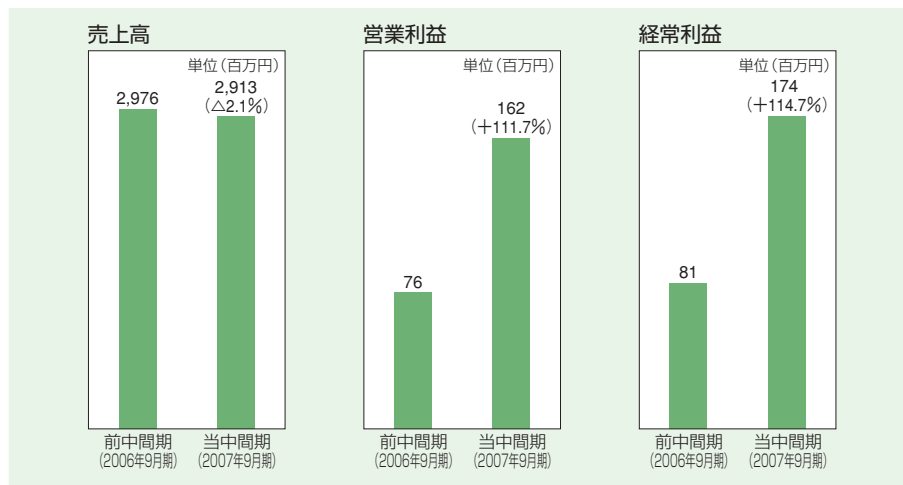
特別損失の主な要因は、映像・音楽制作事業部門の業績悪化

特別損失につきましては、映像・音楽制作事業部門の子会社(株)サーティースの業績不振および同社の子会社である(株)ネクサスフィルムスの上期における急速な業績悪化に伴い、単体決算における関係会社株式評価減(477百万円)および連結決算におけるのれん代の一括償却(323百万円)に加え、当社が出資していた映画制作における出資金損失引当金(104百万円)を計上したものです。映像・音楽制作事業につきましては、(株)ネクサスフィルムスの不採算事業の整理および(株)サーティースの収支改善を進めてまいります。2007年10月には、業績好調の(株)オニオンを当社グループにおける重要な企画制作会社として位置づけ、当社の子会社といたしました。今後、経営管理を徹底し、相互協力体制を強化して当社の事業との一層のシナジーを追及し、当社グループのさらなる飛躍を目指してまいります。

今回、特別損失の発生と業績予想の修正を重ねてしまった事態を重く受け止め、当社の業績に関する経営責任を明確にするとともに、今後の業績の向上に取り組んでいくため11月1日より経営体制を刷新いたしました。

ソリューション事業の強化

ソリューション事業はここ数年順調な伸びを示していますが、今後さらに大幅な成長を実現し、主力事業の一つとすることを目指します。ソリューション事業の拡大を加速させるべく、2007年9月、(株)エフエム東京グループのティーエフエム・インタラクティブ(株)と「戦略的業務提携



推進に向けた基本合意書」を締結し、10月から同社との協働体制に入りました。

ティーエフエム・インタラクティブ(株)は、(株)エフエム東京グループの中でブロードバンド向けのエンターテインメント・映像コンテンツの配信を手掛けてきた会社です。今回の業務提携は、グループシナジーをさらに向上させ、モバイル分野のみならずブロードバンド分野での事業展開を推進し、放送と通信を融合させたインターネット総合プロデュース事業に注力することを目的としております。これにより携帯電話やPCといった端末にとらわれず、インターネットをシームレスに捉え、より広い分野のメディアを活用したコンテンツ配信、メディア連動、イベント開催等をワンストップで提案できる体制が出来上がりました。

当社は、法人顧客向けの営業体制を強化するとともに、スケールメリットを活かした事業展開を鋭意進めてまいります。

■新しいジグノシステムジャパンを目指して

モバイルコンテンツ制作会社として伸びてきた当社は、(株)エフエム東京グループのリーディングカンパニーとして放送と通信の融合のさきがけとなる、インターネット総合プロデュース企業へと脱皮を図ります。「生みの苦しみ」も予想以上に大きく、ご心配をおかけしておりますが、事業全般を見回しますと、IP事業におけるユーザー数の下げ止まり、ソリューション事業の順調な伸びなど、明るい材料も増えてきております。

今後当社は、(株)エフエム東京グループとさらなる協働体制の強化を図るとともに、グループのリーディングカンパニーへと転換し、より一層の飛躍と発展を目指してまいります。株主の皆様にはより一層のご理解・ご支援を賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。



ジグノの第二ステージ

当社は(株)エフエム東京の持つ多彩なグループ企業群を活かし、放送と通信の融合のさきがけとなるインターネット総合プロデュース企業として生まれ変わります。

さらにグループシナジーを活かしたビジネスの創造と具現化を加速させるべく、まず当社は、同じ(株)エフエム東京グループのPC向けブロードバンドメディア事業会社である

ティーエフエム・インタラクティブ(株)と「戦略的業務提携推進に向けた基本合意書」を締結しました。

今後グループのシナジーをさらに向上させ、モバイルに留まらないブロードバンド分野での事業展開を強力に推進し、放送と通信を融合させたインターネット総合プロデュース事業に注力してまいります。

放送と通信を融合させたインターネット総合プロデュース企業へ

放送局自らが仕掛ける放送と通信の融合



ジグノシステムジャパン株式会社



(株)エフエム東京

(株)エフエム東京グループが有する企業群

戦略的業務提携によりモバイルとブロードバンドをシームレスに活用できる体制を確立





事業別概況

インフォメーションプロバイダー事業

インフォメーションプロバイダー事業（IP事業）では、ドコモ・KDDI・ソフトバンクモバイルなどの携帯電話事業者向けに、着うた[®]、Flash[®]、ゲーム、電子書籍、着せ替えツール、デコレーション／アレンジメールといった最新のサービスを提供しております。

当連結中間期においては、多様化・高機能化する携帯端末対応の着せ替えツール、電子書籍といった質の高いリッチコンテンツの充実に努めた結果、ダウンロード課金モデルの利用者が順調に増加しました。

一方、月額課金モデルの既存待受画面利用者は減少しましたが、コスト構造の見直しにより利益率の改善に努めております。また、モバイル市場において無料サイト（非公式サイト）が急成長する中、無料サイト事業への進出に向けての準備を開始いたしました。

この結果、当連結中間期の売上高は前年同期比6.9%減の14億39百万円、営業利益は前年同期比18.9%増の3億38百万円となりました。

ソリューション事業

ソリューション事業は、他社向けモバイルサイトの企画・開発・運営受託や、画像自動変換システムのASPサービス提供、また、放送・通信を連携させたクロスメディアサービ

スを展開しております。

当連結中間期においては、従来からの携帯サイトの開発・運営・受託、携帯サイト向け画像自動変換ASPサービスが堅調に推移いたしました。また法人営業組織を強化するとともに、モバイルコンテンツ配信における経験に裏打ちされた技術力とグループシナジーを活かした付加価値の高いクロスメディア企画の開発に取り組んでまいりました。

この結果、当連結中間期の売上高は前年同期比54.1%増の3億74百万円、営業利益は前年同期比319.4%増の73百万円となりました。

映像・音楽制作事業

映像・音楽制作事業は、CM音楽制作会社である（株）サーティースと、CMやプロモーションビデオ・ミュージックビデオ等の映像制作会社である（株）ネクサスフィルムズと（株）オニオンの3社を中心に事業を展開しております。

当連結中間期においては、（株）サーティースおよび（株）ネクサスフィルムズは新規事業の不振等により減収となり先行投資コストを回収できませんでしたが、一方、映像制作事業を担う（株）オニオンは順調に業績を伸ばしてまいりました。

この結果、当連結中間期の売上高は前年同期比6.8%増の10億71百万円、営業損失は19百万円（前年同期は36百万円の営業利益）となりました。



連結財務諸表

中間連結貸借対照表

単位:千円	11期中間期 (2006年9月30日現在)	12期中間期 (2007年9月30日現在)
(資産の部)		
流動資産	7,259,471	7,841,270
現金及び預金	5,382,730	6,165,852
受取手形及び売掛金	1,478,909	1,411,480
たな卸資産	46,990	49,726
その他	358,273	226,523
貸倒引当金	7,431	12,312
固定資産	2,563,016	1,397,726
有形固定資産	265,474	274,338
無形固定資産	533,667	52,305
投資その他の資産	1,763,875	1,071,082 *1
投資有価証券	433,968	353,037
その他	1,329,907	718,045
資産合計	9,822,487	9,238,996
(負債の部)		
流動負債	1,082,836	1,062,742
買掛金	688,294	591,895
一年以内返済予定長期借入金	19,636	31,906
賞与引当金	32,119	32,591
その他	342,786	406,349
固定負債	67,849	14,673
負債合計	1,150,685	1,077,416
(純資産の部)		
株主資本	8,435,157	7,880,960
資本金	3,345,562	3,345,562
資本剰余金	3,272,720	3,272,720
利益剰余金	1,816,874	1,262,677
評価・換算差額等	12,289	30,660
少数株主持分	224,355	249,959
純資産合計	8,671,802	8,161,580
負債純資産合計	9,822,487	9,238,996

解説

中間連結貸借対照表

*1: 長期性定期預金から現金および預金への振替5億円等により減少

中間連結損益計算書

単位:千円	11期中間期 (2006年4月1日～2006年9月30日)	12期中間期 (2007年4月1日～2007年9月30日)
売上高	2,976,492	2,913,144
売上原価	2,038,144	1,989,347
販売費及び一般管理費	861,721	761,573
営業利益	76,627	162,223
営業外収益	10,710	24,724
営業外費用	6,201	12,785
経常利益	81,136	174,162
特別利益		21,709 *2
特別損失	14,595	428,736
固定資産除却損	3,266	288
減損損失		323,959
出資金損失引当金繰入額		104,489
その他の特別損失	11,329	
税金等調整前中間純利益(:損失)	66,540	232,864
法人税、住民税及び事業税	69,895	125,195
法人税等調整額	12,654	1,697
少数株主損益	19,059	1,100
中間純損失	9,759	357,462

解説

中間連結損益計算書

*2: 投資有価証券売却益13百万円を含む

中間連結株主資本等変動計算書 (2007年4月1日～2007年9月30日)

単位:千円	株主資本				評価・換算差額等			少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計	其他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
2007年3月31日 残高	3,345,562	3,272,720	1,760,029	8,378,313	6,879	19,093	25,973	248,452	8,652,739
中間連結会計期間中の変動額									
新株の発行									
剰余金の配当			△139,890	△139,890					△139,890
中間純利益又は損失(△)			△357,462	△357,462					△357,462
株主資本以外の項目の									
中間連結会計期間中の変動額(純額)					△2,687	7,374	4,686	1,507	6,193
中間連結会計期間中の変動額合計			△497,352	△497,352	△2,687	7,374	4,686	1,507	△491,158
2007年9月30日 残高	3,345,562	3,272,720	1,262,677	7,880,960	4,191	26,468	30,660	249,959	8,161,580

中間連結キャッシュ・フロー計算書

単位:千円	11期中間期	12期中間期
	<small>(2006年4月1日～2006年9月30日)</small>	<small>(2007年4月1日～2007年9月30日)</small>
営業活動によるキャッシュ・フロー	129,530	291,963 *3
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 569,244	542,410 *4
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 148,227	△154,004 *5
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,678	6,168
現金及び現金同等物の増減額	△ 586,262	686,538
現金及び現金同等物の期首残高	5,168,993	4,679,314
現金及び現金同等物の中間期末残高	4,582,730	5,365,852

解説

中間連結キャッシュ・フロー計算書

- *3: 減損損失計上による収入3億23百万円、売上債権減少による収入1億98百万円、出資金損失引当金繰入額計上による収入1億4百万円、前渡金減少による収入53百万円
- *4: 投資有価証券取得による支出39百万円、定期預金の払戻による収入5億円、投資有価証券の売却による収入1億13百万円
- *5: 配当金支払いによる支出1億39百万円、長期借入金返済による支出14百万円



個別財務諸表

中間貸借対照表

単位:千円	11期中間期 (2006年9月30日現在)	12期中間期 (2007年9月30日現在)
(資産の部)		
流動資産	6,735,075	7,080,706
現金及び預金	5,093,519	5,844,885
売掛金	945,279	879,165
たな卸資産	34,931	1,807
関係会社貸付金	392,499	212,499
その他	274,783	147,677
貸倒引当金	5,938	5,329
固定資産	2,788,916	1,461,207
有形固定資産	142,197	172,321
器具及び備品	105,354	141,336
その他	36,843	30,984
無形固定資産	46,845	28,597
投資その他の資産	2,599,873	1,260,289
投資有価証券	1,375,847	589,936
長期性預金	1,000,000	500,000
その他	224,026	170,353
資産合計	9,523,992	8,541,914
(負債の部)		
流動負債	722,366	681,439
買掛金	466,660	372,380
未払法人税等	50,800	105,455
賞与引当金	31,484	31,274
その他	173,422	172,328
固定負債		
負債合計	722,366	681,439
(純資産の部)		
株主資本	8,798,302	7,856,444
資本金	3,345,562	3,345,562
資本剰余金	3,272,720	3,272,720
利益剰余金	2,180,018	1,238,160
評価・換算差額等	3,323	4,030
その他有価証券評価差額金	3,323	4,030
純資産合計	8,801,625	7,860,475
負債純資産合計	9,523,992	8,541,914

中間損益計算書

単位:千円	11期中間期 (2006年4月1日～2006年9月30日)	12期中間期 (2007年4月1日～2007年9月30日)
売上高	1,857,873	1,738,905
売上原価	1,185,884	1,043,018
販売費及び一般管理費	602,586	520,782
営業利益	69,402	175,104
営業外収益	13,887	20,410
営業外費用	4,527	10,283
経常利益	78,763	185,230
特別利益		21,609
特別損失	4,726	581,777
税引前中間純利益(:損失)	74,037	374,936 *6
法人税、住民税及び事業税	46,094	96,277
法人税等調整額	12,020	8,627
中間純利益(:損失)	39,963	479,842

解説

中間損益計算書

*6: 国内子会社における関係会社株式評価減477百万円、映画制作における出資金損失引当金104百万円を特別損失へ計上したことにより減少

中間株主資本等変動計算書 (2007年4月1日～2007年9月30日)

単位:千円	株主資本									純資産合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		株主資本合計	評価・換算差額等		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	繰越利益剰余金	利益剰余金合計		その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
2007年3月31日 残高	3,345,562	2,972,720	300,000	3,272,720	1,857,893	1,857,893	8,476,176	6,879	6,879	8,483,056
中間会計期間中の変動額										
新株の発行										
剰余金の配当					△139,890	△139,890	△139,890			△139,890
中間純利益					△479,842	△479,842	△479,842			△479,842
株主資本以外の項目の										
中間会計期間中の変動額(純額)								△2,848	△2,848	△2,848
中間会計期間中の変動額合計					△619,732	△619,732	△619,732	△2,848	△2,848	△622,581
2007年9月30日 残高	3,345,562	2,972,720	300,000	3,272,720	1,238,160	1,238,160	7,856,444	4,030	4,030	7,860,475

株式状況

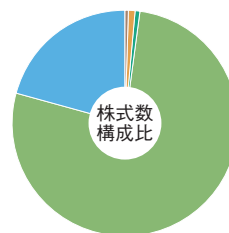
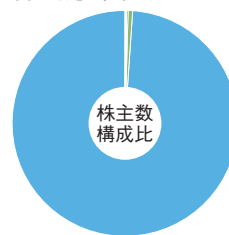
株式の状況

発行可能株式総数	1,316,000株
発行済株式の総数	466,300株
株主数	5,720名

大株主

株主名	持ち株数	議決権比率
株式会社エフエム東京	250,000	53.61%
株式会社ブラザークリエイト	97,301	20.86%
株式会社リコー	9,000	1.93%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,398	0.72%
飯田 桂子	2,685	0.57%
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	1,809	0.38%
大島 康広	1,800	0.38%
村田 俊一	1,200	0.25%
ソフトバンク株式会社	1,199	0.25%
泉 裕治	1,027	0.22%

株式分布状況



会社概要

(2007年9月30日現在)

設立	1996年12月
資本金	3,345,562,872円
所在地	東京都千代田区麹町1丁目12番地
事業内容	インフォメーションプロバイダー事業(国内・海外) ソリューション事業 映像・音楽制作事業 その他の事業
人数	(単体)113名(役員・社員・契約社員・派遣社員) (連結)185名(役員・社員・契約社員・派遣社員)
連結子会社	株式会社サーティース 株式会社オニオン 株式会社ネクサスフィルムス 株式会社ユナイテッド・ワールド・ミュージック ジグノシステムヨーロッパ(欧州子会社) ジグノエンタテインメント(米国子会社)

取締役及び監査役(2007年11月1日現在)

代表取締役会長兼社長	池田 実
取締役副社長	西川 守
常務取締役	吉浜 直人
常務取締役	平 一彦
取締役	飯田 桂子
取締役	唐島 夏生
常勤監査役	近藤 恵
監査役	木田 正幸
監査役	岡田 亘弘
監査役	関田 好久

<http://www.gignosystem.com/>



当社のホームページは株主・投資家の皆様に対して、企業情報、IR情報をはじめとした、積極的な情報開示を行っております。

GignoSystem
Japan

ジグノシステムジャパン株式会社

株主メモ

事業年度 ……4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 ……毎年6月

基準日

定時株主総会 ……3月31日

期末配当金 ……3月31日

中間配当金 ……9月30日

株主名簿管理人 ……三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 ……東京都千代田区丸の内一丁目4番5号

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

(同送付先) ……〒137-8081

東京都江東区東砂七丁目10番11号

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

電話 0120-232-711(通話料無料)

同取次所 ……三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店

公告の方法 ……電子公告の方法により行います。ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行います。

公告掲載 URL ……<http://www.gignosystem.com/>

○株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話及びインターネットでも24時間承っております。

電話(通話料無料) 0120-244-479(本店証券代行部)

0120-684-479(大阪証券代行部)

インターネットホームページ <http://www.tr.mufj.jp/daikou/>

なお、株券保管振替制度をご利用の株主様は、お取引口座のある証券会社にご照会下さい。



環境に優しい植物性大豆インキを使用しております。